

# 西アフリカ滞在記 IV

3/17 朝のミーティングで、体調のすぐれな、周さんと、ランシネ(くり)、  
 ドクター・レンケがシディア村に残る事になり、皆んなの意見で  
 今日は、日帰り帰郷、とくる事になった。クヤシディア・フォリカン  
 のツアー初日は、Laya (レイヤ村) へ向かった。2台のバンに  
 たくさんの方が乗り込んだ。途中、何度も車がハマリ、その都度  
 降りて歩いて進む。しばらくすると車が復活というのを何度もくり  
 返した。それにしても、いろいろな人が合体して、2台の車に乗り30人  
 位乗った。バンの上の荷物は、土ぼこりで真っ白に  
 なってしまった。レイヤ村へ到着した。ここは水が軟水で、  
 井戸水がめちゃくちゃ良かった。少しゆとりする時間があり、  
 村の長に会いに行ったり、いろいろな家もギターの先生と  
 おしゃまわりをしたりと、アフリカの風習に少し触れた。  
 おまつりが始まった。ジェネレーターが不調で、電球が  
 つかず、たき火でトラディショナルスタイルで行われた。  
 すごく幻想的で、不思議だった。おまつりでは、自分たちの  
 パフォーマンスと、ムキ売き、ソリヤドゥヌンで盛り上がった。  
 おじいちゃんやおばあちゃんが飛び出いきて踊ってくれると、  
 めちゃめちゃ感激した。ムキ売きが軽快で、美しかった。  
 祭りの場で演奏できたのもさることながら、自分のソロで  
 村の人が足音、こくったり、一緒に唄ってくれたりしているの  
 を見ると、音楽の垣根の無さ、人間の音楽者においてこの  
 音楽の大切さ、足音する人のためにたたく気持ちよさ。お祭りに  
 参加できる貴重な軽馬食をさせてもらった。本当にありがたう。  
 祭りは夜遅くまでムキ売き、その後、シディア村へ帰った。3時位  
 になつた。さすがにぐったり。初日にして使い果たした。

3/18 朝のミーティングで昨日のコンサートの反省点やクヤシディアフォリ  
 ンのバンドとしての意識の持ち方など中途半端になつた  
 所を逐一直すべく、徹底的に話をした。思いを伝え、  
 シェアした。大切な時間だと思った。

このアフリカ式の話し合いは、一人の話も最後まで  
 聞いてからみんなで意見を言う。だから、発言しやすいし、正直に  
 なる。日本人にはここも欠けていた。頭ごなしでなく、  
 ちゃんとまずは聞く。しかも最後まで。でも考えをみたら当たり前だ。  
 僕ら町の人には、当り前の事ができない。あんなにも交わさない。  
 足を踏んでもカバンが当たっても矢口らん顔。イヤホンで  
 斜断断せられている。コミュニケーションが無い。さみしい民族だ。  
 学校や会社や社会が、個性を抑えつけて、ロボットの複製に  
 文句も言わずカネの為に働く人材を作り上げてきた。結果、  
 画面上でしかコミュニケーションできない異業着が増えた。  
 アフリカの生活が学んだこと、もっと寄り合、2.もっと一着に居て、  
 正直に気持ちもぶつけ合、2.時には怒鳴り合、2.ごも  
 解り合、2.大切な事だと思った。  
 のんびりして、今日はTindonという村へ向かった。何故か、Tindon  
 に行く前に、ドゥワコという村へ行き、ジエネレータを直して、そこで  
 2時間位待たされた。ひますきるのど、アフリカ人のみんなと、ワイド節  
 を練習していたら、すごい人が集まってきた。寄り道や変更がわり  
 このツアーに、みんな最高の機材に変ったとき、それだけ  
 楽しみを見つけた。みんな強いなあ、すごくホジティブに  
 楽しんでくれているので、力ももらえるなあ。お礼がたやありがた  
 Tindonに着いた瞬間から、うー、ここ好きかも、と直感で  
 感じた。日にちの感覚がずれてしま、2.す、かりゆえにならな  
 しまったが、3/19は自分の誕生日。何か一日ずれる村、な  
 今日は何日なんだ”という感覚を覚えた。Tindonでの集りは  
 最高だった。満月も手伝い、すごいテンションだった。自分自身も、  
 や、と自分がおもいきり出せ、すごい良かった。アフリカには、  
 たの誕生日を祝う習慣はないので、集りが終わる、日が変わり、  
 ひっそりと44才を向かえた。しかし、すばらしい集りだった。  
 悔いなくできた。それがサイコーだった。

3/19. 朝おなかを食べて、巨大なバオバブを観光に行く。写真を撮  
撮っていたら、アホみた..に人が集まってきた。すぐにみんな馬区け  
ついでくる。とっぴあが逃げた。小さなCafeで一息ついていたら、  
太鼓の音が聞こえてきた。行く、とみるに村のどしどしジンバフォラと  
サンバンフォラ(しかもどしどし!)がたまたま、女のんたちは、  
お揃いの衣裳に着がえ。朝から祭りが始まった。  
僕らクマシテアフォリカンもまた演奏する事になり、夜更の  
朝花節をうたった。日本のうたも三味線もはじめに聞く人はわり  
で反響が..おもしろかった。みんなめっちゃくちゃ喜んでくれた。  
やはり、伝統文化が大切だと改めて思った。日本人が  
日本を誇りに思い、文化を大切にしない限り、日本は  
七しな、といってしまう。少しづつでも学び、下の世代に伝えるやうの  
が、自分たちの役割なんだと思う。

そんなしているうちに出発! 次はジヤラヤというクマシテアの  
とほり村の向かう。ジヤラヤに着いたらまたまたトラブル発生!  
どしどし話がうまく通っていい感じ、今晚まっかができるよと  
いう事になった。もう何かあるもおどろかない。  
かなりじが全段えらねきた。一服して子供たちと遊んでいると  
集合がなかり、祭りの準備にといなされた。グループ全体が  
疲れたから、ていた。かなり過酷なスケジュールの中、トラブルや  
ストレスで、全員は..だった。でも、ジヤラヤでは、ジンバフォラが  
居る..とあり、なれと、2年振りの大きな祭りという事を聞いて、  
みんなやる気が出た。あとひとふんばり、今悲しみの中  
にいる日本の人たちのためにガンバローと一体になれた。  
祭りのMendjianiのダンスの時カンケ=をたいた。この前のまっか  
の時、連すま..ついで行けなな、た。どべルを一つぬいてみた。  
ていたら、どうだろう! Kouyateのサンバンと..に一体になった。  
本当にモーターとシャフトの様な、お互い..な..は..ならぬ..さうに  
ドラマのうかりと三味線一体になつて、こんな感覚ははじめにた  
す..く幸せな一瞬。すばらしい誕生日になった。

この日は、シテラア村に体調不良で一人残っている園さんを見かねて心配していき、シテラアには泊まるが、シテラアに帰った。子供たちとめっちゃ仲良くなつたので心残りだったが、また来よう。

3/20.  
夕方までのんびりすぎ、明日このシテラア村を離れると思うとさみしい。しかし、それを察知した子供たちが、一言に、シンコミナ、シンコミナ。(思い出)をくれ!と言、2. 壊中電火置やでんち、服や虫よけなじをぬたりに来る。子供だけでなく大人も。どいまで冗談じどいまで本気かかわらな。なんせ顔がゴツイので、たか、この本気に思えるが、大切にものだからダメ、と言うと、素直にひきさがる。でもおきらめずには何處も何處も言う。ハア、癒れた。と思、いいるとそんな日頃もなと次々次々と人が来る。一応、何かあげられる物と思、い、持、てきたはずだが、いざとなると何を誰にあげればいいのや。イスラム教では、年上か年下に、持、てる人が無、い人にといいのが当たり前らしいが、あまりにも露骨すぎと服が立つ。でも、子供に服もあげた、その子の家族にお礼を言われたり、お金も、尊敬の念を込めて渡すと、すっごくいい贈り物にもなった。不思議な文化。夕方から、シテラアの最後の演奏になった。みんな癒れき、てい演奏は最悪中の最悪だったけど、いっしょに僕らはこの村の人気者にな、て、いた。すっごく興奮と歓声につつま、て、僕たちの村まわりツアーが終了した。夜中まで人が部屋に来、て、お金くれと、お前とお前はカッパルになれと、一緒に寝よと、冗談も本気かわからな、ギタグをくり返しくり返し、言、て、いた。それ何気なく帰る。彼らは空気を読むと、僕、肌でそれを感、じて、不思議とイヤな感じはな。い、その世界にはま、てゆく。おるるべしアフリカンマジック。忘れられな。い。

3/21. 予定より4時向ほど遅れシテアを出発。お別れの時は  
みんなみんな泣いていた。このアフリカの人たちの人を思う  
気持ちは何だったか!? でも、また会える気がした。  
今日の目的地はKurussa. や、と街へ出るのど日本に  
どこかができる。やはり、片時も、日本の事、家族の事を忘れる  
事ができず、エピソードも、どうする事もできなく、ただ信じて  
演奏し続けた。Kurussaに行く途中、ニジエール川に入って  
みえた。ふんどしで入ったアフリカ人に笑われた。  
ニジエール川は聖地だった。入水して感覚が変わった。  
Kurussaの街はゴミと木っぴりとキチガイで死にそうだった。  
街へ来たよりやく日本にでんかした。久しぶりに話し、日本の状況  
を聞いた。うちの奥さんの肝のすまり方におどろきと安心をおぼえた。  
いざという時頼りになるなまと感じた。みんな、日本人メンバー  
の家族も無事だった。と同時に、インターネットがない。放射能の  
ことばかりを知り、不安もよぎった。乗り物落ちも手伝って。  
今日は街を離れて、Mamadou Kouroumaの故郷バビラ  
に泊まる事になった。ここは快でき、すこよく寝た。  
これから日本はどうなるのだらうか、東艦ともいろいろ話していた。  
干エノゴイロと同じくらいの大事故と聞いてどうとした。同時に、  
こんなになるまで原発を放置しておいた自分に腹が立  
った。昔から知っていた。でも、本当に止めたかと思っただ  
のか、音楽では唄ったりしていたか。実際に夕の人へ受け  
とめてもらったのか、自分は何をしたのか振り道、た。  
でも、これも何かの縁でここに居る。日本のこんな生活、  
生き方の中心がここには在る。シンポルな生き方、人間的な  
生き方、豊か豊か、自然との共生。利己より利他。しっかり学んで、  
こんなことを信じる事に唄、しきました。無事だった家族に  
感謝。考へる機会を与えてくれた出来事に感謝。